



6月号を担当したのは

氏名：安達 一花

趣味：神社・寺巡り

好きな時間：家でゆっくりしている時間

好きなもの：古事記

将来の夢：長生きすること

6月号 古事記って何？

みなさん、こんにちは。私は古事記を紹介します。みなさんは古事記を知っていますか？私は古事記が大好きです。

古事記に何が書いてあるかという、いつ何が起こったとかが書かれているわけではなくて、日本がどうやってできたかということが、神話や伝説を交えて物語っぽく書かれています。古事記の魅力は、たくさんのエピソードから、さまざまな形の愛が感じられるところにあると思います。

古事記とは、712年に成立した、日本最古の歴史書です。天武天皇の指示によって作り始められ、稗田阿礼(ひえだのあれ)という優れた記憶力を持つ語り部が覚えた話を、太安万侶(おおのやすまろ)が分かりやすく書き起こして編纂しました。

歴史書といっても、単に国の歴史が書かれているのではなく、神話や伝説を交えて日本の成り立ちや天皇の実績がまとめられています。全体の構成は、上巻・中巻・下巻の三つに分けられており、上巻が大部分を占めています。(上巻は日本の神話、中巻は神々と天皇の話、下巻はほとんど天皇の系譜)

ここで、いくつかお話を紹介したいと思います。

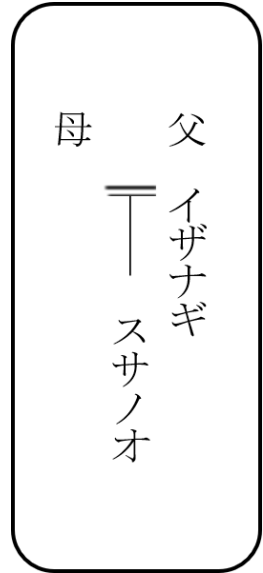


スサノオノミコトの母への愛【スサノオはマザコン！？】

一つ目は、スサノオノミコトの母への愛の話です。

ここでは、スサノオノミコトとイザナギノミコトという神が登場します。(イザナギはスサノオの父で、母親はやけどで死んでしまいました。)

父親であるイザナギがスサノオに対して、海原を治めるように指示します。しかし、スサノオは死んだ母を忘れられず、泣き喚き、イザナギに従いません。スサノオの泣く様子は山や河、海を枯らして、世界の秩序が失われるほどでした。そこで、イザナギが、スサノオに、なぜ泣いているのか尋ねると、死んでしまった母に会いたくて泣いているのだと答えました。



「僕(やつかれ)は、妣(はは)が国の根之堅洲国(ねのかたすくに)に罷(まか)らむと欲(おも)ふが故に、哭(な)く。」とまをしき。

〈訳〉「私は、亡き母の国の根之堅州国に参りたいと思って泣いているのです」と申し上げた。古事記 P.55

死んでしまった母親が好きすぎて、どうしても会いたいという理由で泣き喚くスサノオ。結局、スサノオは追放されてしまうのですが、亡くなった母親を恋しく思うという話は、源氏物語の中で、幼い頃に亡くした母の面影を求めて恋愛をする、光源氏と似ている部分があると思いました。

オオナムチとスサノオノミコト【娘は渡さん】

二つ目は、オオナムチという神と、さきほどのスサノオノミコトという神が登場します。

ここでは、スサノオのもとに、スサノオの娘が、婚約者であるオオナムチを連れてやってくる場面です。父であるスサノオは、娘をそう簡単に渡すものか、とオオナムチに過酷な試練を課します。最初は…

即(すなは)ち喚(め)し入れて、其の蛇の室(むろ)に寝(い)ねしめき。

〈訳〉すぐに呼び入れて、蛇の室に寝させた。古事記 P.81

なんと、スサノオは大量の蛇がいる密室へオオナムチを案内します。次に…



亦、来(こ)し日の夜(よ)は、呉公(むかで)と蜂との室(むろ)に入れき。

〈訳〉再び大穴牟遲神(おおあなむじのかみ)が来た日の夜には、須佐之男大神は大穴牟遲神を百足と蜂の室に入れた。古事記 P.81

スサノオはオオナムチをムカデだらけの部屋に案内します。次に、スサノオは野に矢を放ち、オオナムチに取って来るように言いました。

故、其(そ)の野に入(い)りし時に、即(すなは)ち火を以(もち)て其の野を廻(めぐ)り焼きき。

〈訳〉それで、その野に大穴牟遲神(おおあなむじのかみ)が入ると、直ちに火でその野の周囲を焼いた。古事記 P.82

スサノオはオオナムチの周りに火を放つ！

そして最後の試練。スサノオはオオナムチを家に招き、髪の毛のシラミを取らせます。しかしスサノオの頭には…

故爾(かれしか)くして、其の頭を見れば、呉公(むかで)、多(あま)た在り。

〈訳〉それで、大穴牟遲神が須佐之男大神(すさのおのおおかみ)の頭を見ると、百足がたくさんいた。古事記 P.83

なんとなんと、スサノオの頭にはシラミではなくムカデが大量にいたのです。オオナムチはムカデを噛み潰すふりをして、木の実と赤土を噛み砕いて吐き出し、スサノオに気づかれずにやり過ごしました。結局、スサノオの娘とオオナムチは、スサノオが居眠りしている間に駆け落ちしてしまいます。スサノオは最終的には結婚を認めましたが、娘を大事に思い、娘はそう簡単には渡さない！という気持ちになる親がいるのは、今も昔も同じなのだと思いました。(ちなみに、ここで登場するオオナムチは、のちにオオクニヌシと名前を変え、再び物語に登場します。また、オオクニヌシは、島根県にある出雲大社の御祭神です。)

オトタチバナヒメとヤマトタケルノミコト【自分の命と引きかえに…】

最後は、ヤマトタケルノミコトと、その妻のオトタチバナヒメという人物が登場します。

ヤマトタケルが東の地方へ征伐に行くために海を渡ろうとしますが、海の神が荒波を起こしたため、船で渡ることができませんでした。

爾(しか)くして、其の後(きさき)、名は弟橘比売命(おとたちばなひめのみこと)、白(まを)しく、「妾(あれ)、御子(みこ)に易(かは)りて、海の中に入(い)らむ。御子は遣(つかは)さし政(まつりごと)を遂げ、覆奏(かへりこ とまを)すべし」とまをしき。

〈訳〉その時、その後、名は弟橘比売命が申して、「私が、御子の代りとなって、海の中に入りましょう。御子は、遣わされた任務を果たして、復命申してください」と言った。古事記 P.227

オトタチバナヒメが海に身を沈めると、荒波は自然に静かになって、ヤマトタケルの乗った船は先に進むことができました。そしてそれから七日後に、オトタチバナヒメのくしが海辺に流れ着き、ヤマトタケルはそれを拾いとり、御陵を作って納め置きました。

自分の命を犠牲にしても、夫を助けるオトタチバナヒメの行動から、深い夫婦愛が読み取れます。

妻	夫
オトタチバナヒメ	ヤマトタケル



最後に…

今回、三つのエピソードを紹介しましたが、古事記には、他にも、ドラマチックな話、感動できる話がたくさんあります。古事記は、難しい歴史書というイメージがあるかもしれませんが、実際はとても面白くて、笑える話がたくさんあります！わかりやすいマンガや、面白く説明している動画もあるので、ぜひ読んでみてほしいです。

※本文と訳は、小学館『新編日本古典文学全集』に準拠しています。なお、引用に際しては(巻、ページ数)で記載しました。

◆京都府立嵯峨野高等学校「京・平安文化論ラボ」の活動は、各SNSで更新中◆

Instagram : https://www.instagram.com/kyo_heian_labo/

X(旧Twitter) : https://x.com/kyo_heian_labo